

設楽発掘通信

No.2

平成26年
7月1日号

まんぜ
万瀬遺跡の発掘調査

いよいよ開始



川向かわむきに所在する万瀬遺跡まんぜの発掘調査がようやく本格的に始まりました。

前回の設楽発掘通信第一号では、万瀬遺跡の発掘調査は七月から実施する予定とお伝えしましたが、急遽、手続き上の問題から西地・東地遺跡よりも先行して六月から実施することになりました。そのために、西地・東地遺跡の調査は、予定よりも遅く七月からの開始となりました。

さて、今年度の万瀬遺跡の発掘調査は、平成二十年度から行われた範囲確認調査で判明した遺跡範囲のうち、県道よりも川側の一部（2050平方メートル）を発掘調査します。

まず、大型機械を用いて表土（近代以降の新しい堆積）を除去し、縄文土器や石器を含む黒色土の表面を出して、調査を進めてまいります。八月頃には万瀬遺跡の地元説明会を開催したいと考えています。具体的な内容は次号でお知らせする予定です。

一方、万瀬遺跡の発掘調査と平行して、大名倉遺跡・上戸神遺跡・川向萩ノ平沢遺跡・大栗遺跡・永江沢遺跡の五遺跡の範囲確認調査も始まりました。範囲確認調査は1メートル×2メートルのトレンチ（試掘坑）を点々と掘削し、遺跡の広がり調べます。まずは、川向の大栗遺跡の範囲確認調査を行い、そこでは弥生土器や縄文時代の石器などが出土しました。

範囲確認調査は、川向萩ノ平沢遺跡・上戸神遺跡・大名倉遺跡と進んでおり、最後に永江沢遺跡を行う予定です。七月中には作業を終える予定です。（愛知県埋蔵文化財センター 鈴木正貴）

平成二十六年 範囲確認調査について

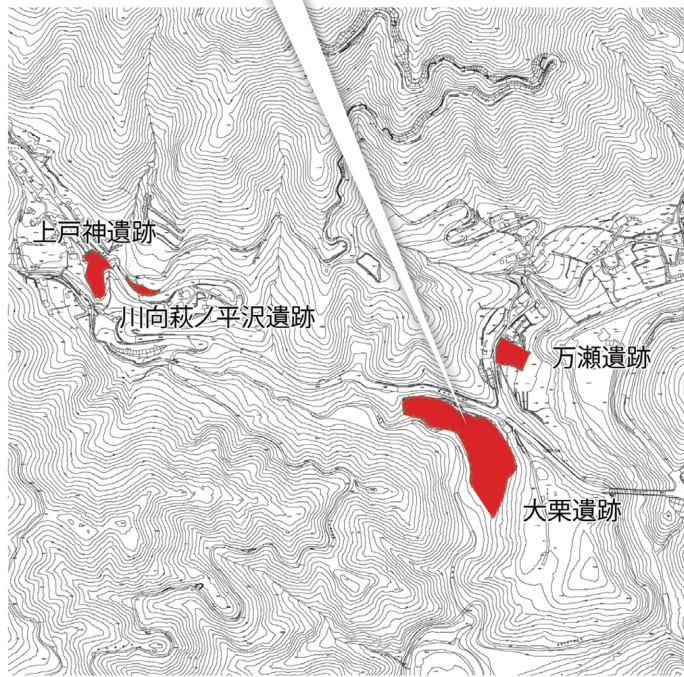
本年度の範囲確認調査は、過去三年にわたり調査した大名倉の大名倉遺跡に加え、川向の大栗遺跡・上戸神遺跡・川向萩ノ平沢遺跡と八橋の永江沢遺跡の計五箇所を予定しております。

六月初めよりまず、大栗遺跡の調査を開始しました。大栗遺跡は標高395〜415メートルの境川右岸の南向きの山麓傾斜面に立地しています。範囲確認調査では、トレンチと呼ばれる試掘坑を地形の状況に合わせて調査範囲内にいくつか設定していきます。トレンチは、1メートル×2メートルと小規模ですが、必要最小限の労力で遺跡の範囲・遺構や遺物の有無を探っていきます。

実際の調査では、人力でスコップや鋤簾を使ったり、小型のパワーショベルを使ったりしながら、地面を1メートル〜2メートル弱の深さまで慎重に掘り下げていきます。(写真1・写真2)

大栗遺跡では、四〇箇所のトレンチを掘削しました。遺構・遺物ともに少なかったものの、調査対象範囲の中央部を中心に、縄文時代のものと思われる石器、弥生時代〜古墳時代のものと思われる石器の破片や、近世〜近代のものと考えられる播鉢・磁器碗等の生活用品、時期不明の土坑等が見つかっています。

今後は順次、他の遺跡についてもいただきたい七月までの予定で範囲確認調査を進めてまいります。



大栗遺跡の地図



写真1 人力での掘削風景



写真2 重機での掘削風景

万瀬遺跡の調査について

万瀬遺跡は、昨年度までの範囲確認調査結果より、縄文時代及び平安時代〜戦国時代の遺跡であると想定されています。

六月中旬より掘削用の大型のショベルカーや排土運搬のキャリアダンプを用いながら、順次、余分な土を削っていき、石器や石器などの遺物が混じっている土(遺物包含層と呼びます)の表面を出していきます。(写真1)

今回の調査区では、近現代の盛土などによって地形が改変されていたことから、調査員が土の色や質、堆積具合を確認しながら、過去の地形を考えながら掘削を慎重に進めていきます。

調査前の状態と、表面の土を削り終えた状態の写真を見比べて頂ければ地形の変化の一端を知ることが出来るでしょう。(写真2・写真3)

表面の土を削り終わったのち、作業員さんが横一列に並んで、遺物包含層を鋤簾やスコップを使って、当時の人が生活していた跡(遺構と呼びます)を確認出来る地面の高さまで掘り下げます。次に、遺構と思われる土の違いを見つめる(遺構検出と呼びます)ために、また横一列に並んで、鋤簾で少しずつ土を削りながら後ろに下がっていきます。この土の違いは、黄色の地面に黒い土が堆積しており、すぐに分かるものもあれば、黒灰色の地面に灰色の土が堆積しているなど、なかなか判断に困るようなものもあります。

今回の報告は、遺構検出を始めた段階のものなので、次号発掘通信が配信される頃には、興味深い遺構などが見つかっているかもしれませんね。(ナカシャクリエイテブ株式会社 樋田泰之)



写真2 調査前(北側方向より)



写真1 重機・キャリアダンプでの掘削風景



写真3 表土掘削中(北側方向より)



ささだいら
笹平遺跡採集 岩偶岩版類
 がんぐうがんばんるい

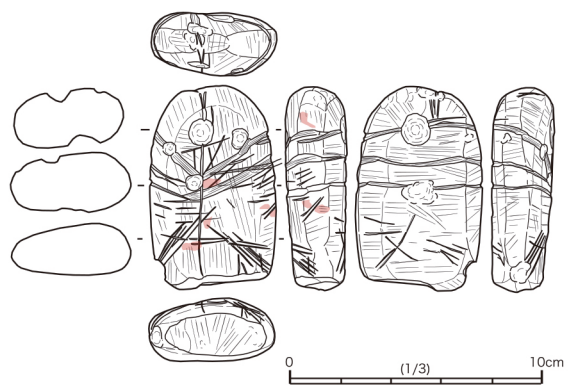
奥三河郷土館には、設楽町内をはじめとする、多数の考古資料が保管されています。ここでは、そのなかから、小松の笹平遺跡から採集された資料について、ご紹介します。

下に示した資料は、岩偶岩版類で、石製の人形（ひとがた）といわれているものです。大きさは、長さ8センチ、幅5センチ、厚さ2.5センチで、厚手の扁平な板状になっています。

表面には縦あるいは横方向に幾条もの線刻が巡るように施されており、全体に擦られた痕跡が認められます。それほど厚くなく、上面側には敲打の痕跡や、表裏には貫通していない孔の痕跡が幾つも観察できます。白色を呈する凝灰岩で作られています。表面に赤彩の痕跡が残っており、当時は赤い顔料が付けられていたことが分かります。

この岩偶岩版類は、おまじないや、お祀りなどの場面で使われたようで、その際に、敲いたり、擦ったり、貫通していない孔を施したりと、当時の精神文化を考える上で、貴重な事例といえます。時期は、縄文時代後期から晩期（今から三千五百年ほど前）のものと考えられます。近隣で、類似の資料が多数出土した遺跡に、三重県松阪市の天白遺跡があります。天白遺跡では集落内あるいは付近で祭祀行為が行なわれたようで、礫を意図的に並べた配石遺構が多数見つかっています。

※ ※ ※
 笹平遺跡は、設楽ダム関連調査の一環として、愛知県埋蔵文化財センターによって範囲確認調査が行われており、縄文土器などが出土しています。設楽ダム予定地内にある当遺跡も、いずれは本格的な発掘調査により、遺跡の様相が明らかにする時がくるでしょう。（愛知県埋蔵文化財センター 川添和暁）



笹平遺跡採集 岩偶岩版類（奥三河郷土館 蔵）

設楽発掘通信

No.2

平成26年7月1日号



編集・発行
愛知県埋蔵文化財センター

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須田野方802の24

電話 (0567)(67-4161)【管理課】 4163【調査課】

ホームページ <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力

ナカシヤクリエイテブ 株式会社